

様 式 Z - 7

平成 2 5 年度科学研究費助成事業 実績報告書 (研究実績報告書)

1. 機関番号

2	3	1	0	2
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 新潟県立大学
3. 研究種目名 基盤研究(B) 4. 研究期間 平成 2 5 年度 ~ 平成 2 7 年度
5. 課題番号

2	5	2	8	4	0	7	2
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 朝鮮近代文学における日本語創作に関する総合的研究
7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
5 0 2 5 9 2 1 4	ハタノ セツコ	国際地域学部	教授
	波田野 節子		

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
8 0 4 0 9 3 6 7	ワタナベ ナオキ	武蔵大学・人文学部	教授
	渡辺 直紀		
1 0 4 2 5 3 6 6	ヤマダ ヨシコ	国際地域学部	准教授
	山田 佳子		
7 0 3 3 0 8 9 2	クマキ ツトム	福岡大学・人文学部	教授
	熊木 勉		
9 0 1 9 7 7 5 7	ツボイ ヒデト	名古屋大学・文学研究科	教授
	坪井 秀人		
6 0 4 2 5 0 8 0	ミツイ タカシ	東京大学・総合文化研究科	准教授
	三ツ井 崇		

9. 研究実績の概要

本共同研究は、朝鮮近代文学における日本語創作についての新たな知見を得ることを目的に、朝鮮近代作家の個別研究、近代朝鮮語形成期の朝鮮半島における日本語の諸様相、日本留学した朝鮮人学生たちがおかれた言語環境、植民地朝鮮のメディアや映画における日本語使用状況など、多様な領域を専門とする連携研究者たちが各自の蓄積をもちよっての意見交換をおこなうものである。共同研究1年目である本年度は、以下のような活動をおこなった。(1)2013年6月20日に連携研究者であるYale大学のJohnTreat教授を武蔵大学に招いて「李光洙の対日協力問題について」レクチャーをしていただいたあと討論をおこなった。(2)10月4日にUCSDのTodd Henry助教授を武蔵大学に招き、「京城という 同化 空間 植民地朝鮮における日本統治と公共空間の政治1910-1945」というタイトルの講演をしていただいて討論をおこなった。(3)11月30日にはメイン事業として、武蔵大学で第1回国際シンポジウム「植民地朝鮮の文学・文化と日本語の空間」を開催した。代表者と分担者のほか、日本在住、米国在住、韓国在住の連携研究者たちが一堂に会し、一般参加者も交えて意見交換をおこなった。翌12月1日には日本近代文学会の12月例会国際集會「日本近代文学のインターフェース」(日本大学)に合流して「日韓文学の関連様相」というパネル発表をおこなった。この過程で共同研究者たちは互いの研究への理解を深め、来年度さらに突っ込んだ意見交換をするための準備を整えた。(656字)

10. キーワード

- (1) 朝鮮近代文学 (2) 日本語創作 (3) 植民地 (4) 二重言語
 (5) 李光洙 (6) 大東亜共栄圏 (7) 「国際研究者交流」韓国 (8) 「国際研究者交流」米国

11. 現在までの達成度

(区分)(2) おおむね順調に進展している。

(理由)

共同研究1年目である本年度は、研究者たちが本共同研究の目的と互いの研究内容をよりよく理解することで、これからの研究態勢を整えることを主眼にした。東京で行った第1回国際シンポジウムでは、参加者たちは会場近くのホテルに泊まり込み、会場以外でも討論をつづけるなどして交流と理解を深めた。2日目は日本近代文学学会例会に合流してラウンドテーブル形式のパネル発表をおこなった。これは本研究の分担者2名が当該学会に所属する日本文学専攻者であったからだが、結果的に予想外の収穫を得ることができた。日本近代文学研究においてアジアという視点の重要性が大きく浮上していることを感じることができ、今後は地域と領域を越えた研究協力が必要であることを実感した。国際シンポジウム開催に先立っておこなった2回の講演会では、テーマをしばりこんで深みのある意見交換を行うことができた。今後は、このような小規模講演会にも力を入れていきたい。以上から、来年以降議論を深めるための土台作りはうまくいったと考えられる。(436字)

12. 今後の研究の推進方策 等

(今後の推進方策)

討論によって新たな知見を獲得することを目的としている本共同研究においては、専門的な知識をもった有能な研究者の参加が大きな刺激と力になる。そこで来年度(平成26年度)は分担者と連携研究者を増やして研究者ネットワークを強化する。第2回の国際シンポジウムは代表者のホーム校がある新潟で7月に開催する予定である。このほかに5回程度、連携研究者あるいはその領域の専門家を東京に招いて小規模の講演会を開き、意見交換をおこなう。最終年度(平成27年度)には第3回国際シンポジウムを開催し、研究終了後は、本共同研究によって得られた知見を分担者・連携研究者たちがもちよって、日本と韓国とで本を出版する。(292字)

(次年度使用額が生じた理由と使用計画)

(理由)

米国の連携研究者4名の旅費を予算に入れていたが、うち1名が参加できず、1名は中国の大学からの招請と日程調整をして、旅費はそこから支払ったために不要となった。またシンポジウムの予稿集の予算を組んでいたが、第1回目の今回は作成しなかった。

(使用計画)

今回は代表者のホーム校である新潟県立大学で第2回シンポジウムをおこなうが、米国から4名が参加する予定である。また研究者ネットワーク増強のために分担者1人、連携研究者12人を増員したので、旅費支出が増える見込み。

13.研究発表(平成25年度の研究成果)

(雑誌論文) 計(8)件 うち査読付論文 計(6)件

著者名		論文標題【掲載確定】			
波田野節子		李光洙の日本語小説と同友会事件			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
朝鮮学報	有	232	2 0 1 4	0	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名		論文標題			
波田野節子		李光洙と翻訳 アンクルトムズ・ケビンを中心に			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
東京大学 韓国朝鮮文化研究	無	13	2 0 1 4	1-21	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名		論文標題			
波田野節子		「斎藤文書と李光洙の建議書」(韓国語)			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
近代書誌(ソウル)	無	8	2 0 1 3	381-403	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名	論文標題			
渡辺直紀	The Colonial and Transnational Production of Suicide Squad at the Watchtower and Love and the Vow			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
Cross-Currents	有	vol.2, number 1	2 0 1 3	89-115
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
三ツ井崇	日中戦争期以降における朝鮮總督府の言語政策と朝鮮社会 日本語「普及」問題を中心に			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
翰林日本学	有	23	2 0 1 3	37-97
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名	論文標題			
李慧眞	文人動員の兵站学:アジア・太平洋戦争下の「大東亜文学者大会」を中心に			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
亜太研究(ソウル)	有	20-3	2 0 1 3	261-300
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)				
なし				

著者名		論文標題			
郭炯徳		金史良作「郷愁」における<東洋>と<世界>「転向」の前提条件をめぐって			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
現代文学の研究(ソウル)	有	33	2 0 1 4	213-248	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

著者名		論文標題			
眞仁諱		近代期朝鮮における新概念としての「詩」と言語横断的实践			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
朝鮮学報	有	227	2 0 1 3	47-73	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

(学会発表) 計(3)件 うち招待講演 計(3)件

発表者名		発表標題	
波田野節子		李光洙の大陸放浪と中国第2革命	
学会等名	発表年月日	発表場所	
中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム(招待講演)	2013年08月21日	延辺大学	

発表者名		発表標題	
波田野節子		李光洙と翻訳	
学会等名	発表年月日	発表場所	
国際シンポジウム「朝鮮近代文学、その萌芽と展開」(招待講演)	2013年10月26日	早稲田大学	

発表者名	発表標題	
波田野節子	方珉昊「李光洙の文学世界」に対して	
学会等名	発表年月日	発表場所
明治学院創立150周年記念シンポジウム「李光洙とはだれか」(招待講演)	2013年11月09日	明治学院大学

〔図書〕計(3)件

著者名	出版社		
波田野節子	有志舎		
書名	発行年	総ページ数	
講座「東アジアの知識人」第3巻	2 0 1 3	362(132-148)	

著者名	出版社		
三ツ井崇	明治書院		
書名	発行年	総ページ数	
知のユーラシア5 交響する東方の知 漢文文化圏の輪郭	2 0 1 4	432(265-293)	

著者名	出版社		
相川卓也	七月堂		
書名	発行年	総ページ数	
言語態研究の現在	2 0 1 4	347(275 ~ 293)	

14.研究成果による産業財産権の出願・取得状況

(出願) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

(取得) 計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15.備考

朝鮮近代文学における日本語創作に関する総合的研究 日本学術振興会科学研究費補助研究のページ
<http://hatano.world.coocan.jp/kaken2/kaken25-27index.htm>